

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年4月24日 (2014.4.24)

【公表番号】特表2013-521889(P2013-521889A)

【公表日】平成25年6月13日 (2013.6.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-030

【出願番号】特願2012-557237(P2012-557237)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/32 (2006.01)

A 6 1 F 2/30 (2006.01)

A 6 1 F 2/46 (2006.01)

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 B 17/68 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/32

A 6 1 F 2/30

A 6 1 F 2/46

A 6 1 B 17/16

A 6 1 B 17/56

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月10日 (2014.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

関節運動形人工関節であって、前記人工関節は、

関節運動形関節の骨の除去端部分に取って代わるよう構成されると共に作用できる骨置換構造体と、

前記骨置換構造体を前記骨の切除端部に固定するよう構成されると共に作用できる固定器具とを有し、前記固定器具は、

前記固定器具が前記骨の前記切除端部内に植え込まれたときに前記骨の切除表面と実質的に面一をなして配置されるよう構成された実質的に平らな下面を有するヘッドと、

前記ヘッド下面から延びる固着用ステムとを有し、前記固着用ステムは、

前記固着用ステムの長さに沿って螺旋状に設けられた 1 つ又は 2 つ以上の凹み溝と

、

前記固着用ステムの遠位端部のところに形成された鋭利な骨穿通先端部とを有し、前記穿通先端部は、前記骨の前記切除端部中への前記固着用ステムの打ち込み時に前記骨の組織を切断して押し退けるよう構成されている、人工関節。

【請求項 2】

前記固定器具の中心軸線に沿って前記固定器具を貫通して延びる長手方向ボアを更に有する、請求項 1 記載の人工関節。

【請求項 3】

前記固定器具は、前記固定器具の近位端部のところに設けられていて、前記骨置換構造

体を前記固定器具に固定的に結合するよう構成されると共に作用できる骨置換構造体カップリングを更に有する、請求項1記載の人工関節。

【請求項4】

前記骨置換構造体カップリングは、前記固定器具の前記近位端部に対して軸方向に心出しされたカップリングソケットを有し、前記カップリングソケットは、前記骨置換構造体のカップリングポストを受け入れて前記骨置換構造体を前記固定器具に固定的に結合するよう構成されている、請求項3記載の人工関節。

【請求項5】

前記骨置換構造体カップリングは、前記固定器具の前記近位端部に対して軸方向に心出しされると共に該近位端部から延びるカップリングボスを有し、前記カップリングボスは、前記骨置換構造体のカップリング受け口内に受け入れられて前記骨置換構造体を前記固定器具に固定的に結合するよう構成されている、請求項3記載の人工関節。

【請求項6】

前記1つ又は2つ以上の螺旋状に設けられた溝のうちの少なくとも1つは、螺旋状に設けられた溝の各々内における骨成長を促進するよう構成されると共に作用できる模様付き表面を有する、請求項1記載の人工関節。

【請求項7】

前記固定器具の前記ヘッドは、前記固定器具を植え込んだ後、前記固定器具を前記骨の前記切除端部から取り出すよう骨刀の挿入を可能にするよう構成された複数個の骨刀スロットを有する、請求項1記載の人工関節。

【請求項8】

前記骨置換構造体は、実質的に半球形の人工骨頭を有する、請求項1記載の人工関節。